

あおやぎ

No.268
2017年1月

文書受付

支払窓口



▲2016年11月ロビーコンサート 出演：G.G.カルテット+1

院長あいさつ ②

山形県立中央病院県民健康講話 ②

職員のお仕事紹介～看護師より～ ③

第2回あおやぎ祭り2016を開催しました！ ④ ⑤

母乳育児推進委員会の設置 ⑥

人間ドック受診者の塩分摂取量からみた
血圧に対する減塩の重要性 ⑦

外来診療案内 ⑧

INFORMATION ⑧

県立中央病院の理念と方向性

〈理念〉

県民の健康と生命を支える安心と信頼の医療

- ・患者の権利と意思を尊重し、高度で良質、適正な患者中心の医療を提供します。
- ・医療従事者としての倫理綱領を守ります。
- ・最適ながん医療と生活習慣病対策を推進します。
- ・信頼される救急医療を提供します。
- ・地域医療、福祉との連携をします。
- ・将来を担う医療人の教育、育成を行います。
- ・公共性に配慮した健全な病院経営を目指します。



「県民健康講話」の開催について



院長 ● 後藤 敏和

当院を受診していただきありがとうございます。

10月累計の新入院患者数が、過去最高であった昨年度を上回りました。それでも平均在院日数が11.2日と昨年より0.6日短縮し、病床利用率は79.3%と昨年を3.8%下回りました。他の病院や、診療所さらに介護施設との連携が進み、また“必要な急性期の医療を当院で受けた後は、リハビリなどの自宅に帰れるようにするための医療は他の施設で”という意識が県民の皆様に浸透しつつあるからだと感謝しております。このことにより、救急車で搬送されてくるような、当院での急性期医療が必要な患者さんを、よりお引き受けできる環境が整ってきています。

さて、当院で提供している医療の内容について、県民の皆様を知っていただくために、毎月1回「県民健康講話」を開催することとしました。郊外にある当院での開催では、集まっていただきにくく、市内にある「遊学館」で開催することとしました。第1回は、11月5日(土)提案者である泌尿器科診療科長、沼畑健司先生が「前立腺がんのお話」と題しお話ししましたが、43名の皆様に御参加いただき、多くの質問が出て活発な会になりました。12月以降の予定を記載します。勿論、入場無料で、当日参加も大歓迎いたしますので、是非御参加下さい。

県民の皆様の御健勝を祈念しております。

第2回
山形県立中央病院
県民健康講話

●テーマ「あなたのその腰痛、足の痛み大丈夫？
閉塞性動脈硬化症」

山形県立中央病院 泌尿器科 沼畑健司 先生
山形県立中央病院 消化器内科 佐藤 弘明 先生
山形県立中央病院 心臓血管外科 川原 博 先生
山形県立中央病院 リハビリテーション部 寺 一彦 先生
(協賛) 山形県立中央病院 心臓血管外科 阿部 敬典 先生

平成28年12月17日(土)
14:00~15:30

山形県生涯学習センター遊学館 (3階第1研修室)

※ 参加者は県立中央病院(遊学館)を最長2時間まで無料で利用できます。
(入館時・退館時の遊学館(研修会)受付への駐車券の提示が必要です。)

問い合わせ先 山形県立中央病院 医療連携・相談室
TEL: 023-685-2626

第3回
山形県立中央病院
県民健康講話

●テーマ「消化器のがんを知る」

山形県立中央病院 消化器内科 佐藤 弘明 先生
山形県立中央病院 消化器内科 鈴木 真典 先生
山形県立中央病院 消化器内科 佐藤 弘明 先生
山形県立中央病院 消化器内科 佐藤 弘明 先生

平成29年1月28日(土)
14:00~15:30

山形県生涯学習センター遊学館 (3階第1研修室)

※ 参加者は県立中央病院(遊学館)を最長2時間まで無料で利用できます。
(入館時・退館時の遊学館(研修会)受付への駐車券の提示が必要です。)

問い合わせ先 山形県立中央病院 医療連携・相談室
TEL: 023-685-2626

山形県立中央病院県民健康講話

泌尿器科 ● 沼畑 健司

山形県立中央病院県民健康講話が開催されることとなり第1回目を泌尿器科から『前立腺がんのお話』とさせていただきます。晴天の休日にも関わらず、多数の方においでいただき、質問も多く大変盛り上がりしました。

今回のお話を簡単にまとめると

- 1) 前立腺がんの多くはおとなしいがんで、怖いがんかどうかは悪性度で決まります。
- 2) PSA検査(血液を採取してわかる前立腺特異抗原検査です。)が重要です。
- 3) 危険性の低いリスクのがんはすぐに治療せず慎重に監視することが可能です。
- 4) ホルモン治療は効きますが、目的と副作用をよく考えて使いましょう
- 5) 進行した前立腺がんでも、転移が少なければ手術も選択肢に入る時代になってきています。

以上となりますが結局、検診でのPSA検査で早期発見し、治療の必要性、方法を含めじっくり相談していくのがベストと考えます。県民の皆様が前立腺がんを命を落とすことがないように、病院をあげてチーム医療を行っていきたくと考えています。

今後もいろいろなテーマで開催されます。自分の周りの身近な疑問も気軽に質問可能です。御友人、御家族と一緒に健康について一緒に考えていきましょう。ぜひふるってご参加下さい。

第1回
山形県立中央病院
県民健康講話

●テーマ「前立腺がんのお話」
講師：沼畑 健司
(県立中央病院泌尿器科 医師)

平成28年11月5日(土)
14:00~15:30

山形県生涯学習センター遊学館 (3階第1研修室)
山形市緑町1丁目2-36

※ 下記までお電話でお申し込みください(当日、直前にキャンセルがあれば申込がなくなり入場できません。)
※ 参加者は県立中央病院(遊学館)を最長2時間まで無料で利用できます(入館時・退館時の遊学館(研修会)受付への駐車券の提示が必要です。)

問い合わせ先 山形県立中央病院 医療連携・相談室
TEL: 023-685-2626

職員のお仕事紹介～看護師より～

職 名：看護師

氏 名：本間 翠（ほんま みどり）

入庁後の経歴：平成26年4月入庁

平成26年山形県立中央病院 看護師8階東病棟

看護師3年目です。よろしくお願いします。



はじめに

私が所属する8階東病棟は、呼吸器内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の混合病棟で、寝たきりの方や手術・化学療法を受ける方が多く入院されています。患者さんが安全に治療を受けることができるよう、お手伝いをさせていただいています。

ある1日のスケジュール

- 8:30 申し送り
患者さんの状態や病棟のスケジュールを共有します。
- 9:45 リハビリ
肺の手術を受けた患者さんのリハビリを、リハビリスタッフと一緒にいきます。
- 10:00 検温
体温・脈拍・血圧などを測定し、体調をうかがいます。採血を行ったり、レントゲン撮影の介助をすることもあります。
- 11:00 清拭、シャワー浴の介助
患者さんが気持ち良く過ごすことができるようお手伝いします。
- 12:00 食事
患者さんが安全に食べられるようお手伝いします。
- 13:30 カンファレンス
患者さんの経過や今後の方針をスタッフや地域医療部など他職種と共有します。
- 14:00 検温
体温・脈拍・血圧などを測定し、点滴を行います。初めて化学療法を受ける患者さんに対して、薬剤師に連絡し薬の説明をしていただくこともあります。
- 15:00 処置の介助
手術の傷の処置や胸に管を挿入する処置を医師が行うので、その介助を行います。
- 16:00 記録
患者さんとのやりとりや、行った処置などを記録します。
- 17:00 申し送り
夜勤看護師に日中の患者さんの様子を伝えます。



看護師を目指した理由

小学生の頃、かかりつけのクリニックの看護師さんがとても優しく素敵な方で、憧れを抱いていました。成長するにつれて、人の役に立つ仕事をしたいという思いも加わり、看護師を志すようになりました。

山形県立中央病院の、ここがいい！

中央病院には様々な分野の認定看護師・専門看護師が在籍しているので、困ったことがある時はすぐに相談することができます。また、医師や薬剤師・リハビリスタッフ・管理栄養士・地域医療部などと連携してチーム医療を行っており、職種を超えて協力し患者さんをサポートする体制が整っていると思います。様々なスタッフとの関わりを経て、患者さんが無事に治療を終了し笑顔で自宅へ退院する姿を見ると、とても嬉しく感じます。皆様の笑顔をたくさん見ることができるよう、8東病棟の看護師として今後も精一杯頑張っていきたいと考えています。



第2回あおやぎ祭り2016を開催しました!

あおやぎ祭り実行委員会

9月25日(日)に、第2回あおやぎ祭り2016が開催されました。「患者さんや地域の方々に楽しんでもらいたい」という思いで昨年からはじまったあおやぎ祭りは、今回も晴天に恵まれ、大盛況だった前回は上回る約1,100人の方々にご来場いただくことができました。ステージイベント、健康チェック・健康体験コーナー、出店・バザー・働く車コーナー、ドクターヘリ見学のいずれも、常に来場者で盛り上がり、多くの方々に喜んでいただくことができたものと思います。今回ご来場いただいたすべての皆様、イベントの出演や出店いただいた皆様、朝日町から駆けつけていただいた桃色ウサヒ様、そして、今回の開催にあたってご協力をいただいた職員の皆様、本当にありがとうございました。



《開催内容》

イベント

- 10:00～ 開会あいさつ
- 10:15～ クイズ大会
- 11:00～ 園児による踊り披露
- 11:30～ 花笠おどり
- 12:00～ 健康講話
- 12:50～ 応援(青空応援団)
- 13:30～ コンサート(Qbic TV)
- 14:30～ 院長講話



健康チェック・体験コーナー

- リハビリ GO! (車イス、松葉杖体験等)
- 体の年齢を測ってみよう! (血管年齢測定・骨密度測定)
- 調剤してみよう! (薬剤師のお仕事体験)
- がんの悩みを話してみませんか?
- 知りたい! 母乳・育児のこと
- おぼえてください! 緩和ケア
- 実行委員長の特製カレー試食
- あなたの食事は大丈夫? (フードモデルを使ったバランス診断)
- 命のリレー! 臓器移植
- お医者さん・看護師さんに変身! (白衣やナース服を着て写真撮影)
- お医者さん体験をしてみよう! (エコー検査の体験)
- マタニティコーナー (ハンドマッサージ・妊婦さん体験)
- ブラックジャックセミナー (手術シミュレーター・電気メス体験)
- とんりの人が倒れたら!? (救急蘇生法講座)

出店・バザー・働く車コーナー

- バザー (当院職員からの出品商品を販売)
- バルーンアート (当院看護師による実演と配布)
- 山形刑務所 (刑務所で作成した日用品や雑貨の販売)
- スターバックス・レストラン・売店
- 授産製品の販売
- 射的コーナー
- 点字体験コーナー
- 働く車コーナー (DMA Tカー、周産期救急車など)
- ドクターヘリ見学
- 献血バス



たくさんのご来場、
ありがとうございました!

薬剤部薬剤師 石田 恵崇

薬剤部では、「薬剤師のお仕事体験」と題して、おくすり調剤体験ブースを開設しました。当日は錠剤分包、散剤分包、軟膏混合の3種類を準備し、小さなお子様から大人の方まで延べ200名を超える方々に体験していただきました。中には、将来薬剤師を志望しているという中学・高校の生徒さんもあり、いつの日か一緒に仕事ができれば嬉しいなと感じました。子どもたちも、ちゃんと白衣を着て「小さな薬剤師さん」として立派なお仕事をしていた姿がとても印象に残っています。たいへん好評をいただきましたので、ぜひ来年も行いたいです。



リハビリテーション室 理学療法士 平山 慎也

今回、あおやぎ祭りイベントの1つとして「花の山形！山形しゃんしゃん体操」を担当させていただきました。「花の山形！山形しゃんしゃん体操」は健康や運動に対する意識を高めることを目的に、誰でも、いつでも、どこでも楽しくできる体操です。ラジオ体操と同じ運動量ですが楽に運動ができます。当日は、会場に来ていただいた皆さんと体操することができ、一体感を感じました。これからも介護予防として、地域の皆さんがいつまでも健康で元気に生活できるように貢献していきたいです。



栄養管理室栄養管理士 久合田 美穂

『あなたの食事は大丈夫？さっとバランス診断してみよう！』として、米沢栄養大学と連携し、食育SAT(さっと)システム(フードモデルを選んでセンサーにかざすと栄養価計算する機器)を利用したブースを開設しました。330名が訪れ、管理栄養士のアドバイスを受け「バランスがとれていて良かった。」「野菜が足りず塩分も高めだ。気をつけたい。」など感想が寄せられました。また、介護予防栄養相談やカロリーあてクイズのコーナーにも多くの方々にお立ち寄りいただきました。食を通した健康づくりに関心をもっていけたら幸いです。



医療安全専門員 上田 絵美

今年初めて祭りに参加し、バザー係の担当をしました。バザーは10時から開店の予定でしたが、開店前から買うものを選んでいたり、開店と同時に会計窓口に行列ができました。ありがたいことに何品も購入してくださる方もおり、たちまち会計が追いつかなくなってしまいました。会計を根気強く待ってくださったお客様には心より感謝です。また、私が出品したおもちゃ等が売れ、我が家での役割を終えた物がどこかの家で大事に使われると思うと嬉しかったです。昨年は参加しなかったあおやぎ祭りでしたが、思いがけず楽しい1日となりました。来年も是非参加したいです。



来場された方からのご感想

- ・子ども達が医療に携わる仕事を体験できて、とてもありがたい機会でした。
- ・骨密度と血管年齢検査をしてもらいました。これからの健康の為に大変勉強になりました。
- ・実際に外科オペに使用する機械を使わせていただき体験できたことはすばらしかった。
- ・カレーとてもおいしかったです。ごちそうさまです。
- ・DMA Tの車やドクターヘリなど普段なかなか見ることができないものを見られて楽しかった。
- ・色々なコーナーをやって私もお医者さんになりたいと思いました。
- ・園児によるダンスがとても可愛かったです。来年の開催も楽しみにしています。



アンケートにご協力いただきありがとうございました。

母乳育児推進委員会の設置

4階東／MFICU* 看護専門員兼看護師長 ● 菊 地 元 子

* MFICU(母体・胎児集中治療管理室)NICU(新生児集中治療管理室)
GCU(回復期治療室)を総合周産期母子医療センターという。

平成28年度4月に母乳育児推進委員会が設置されました。目的は母乳育児を推進していくことで、赤ちゃん、お母さん、家族にやさしい病院になることです。

—赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital)BFHとは—

1989年3月にWHO・ユニセフは「母乳育児の保護、促進、そして支援するために、産科施設は特別な役割をもっている」という共同声明を発表しました。そして、世界のすべての国のすべての産科施設に対して「母乳育児を成功させるための10ヶ条」を守ることを呼びかけました。

WHO・ユニセフは「母乳育児を成功させるための10ヶ条」を長期にわたって遵守し、実践する産科施設を「赤ちゃんにやさしい病院」BFHとして認定しています。現在日本国内では73施設が認定され(2015年8月現在)、山形県内では山形市立病院済生館が認定されています。

山形県の母乳育児の現状は、一ヶ月時点での母乳率から見ると、各県と比較し下位のグループに属し、山形県全域の母乳育児に対する取り組みが十分でない現状がみえてきます。当院は山形県で唯一の総合周産期母子医療センターとして、山形県の母子の健康を推進していく中心的役割を果たすことが求められています。

当院では以前より母乳育児に力を入れていますが、現状を国際基準と照らし合わせるとまだ不十分であり、病院全体で母乳育児を推進することが求められています。この為に母乳育児推進の中心を担い、母乳育児が適切に推進されるように、提案・および監査を行うことを目的とし病院内に母乳育児推進委員会が設置されました。

母乳育児推進委員会は委員長を片桐千鶴副院長兼看護部長とし、総合周産期母子医療センターの部長医師、助産師、小児科医師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、事務部で構成されています。また、県からオブザーバーとして子育て推進部子ども家庭課主査に参加をしてもらっています。

これまでの活動は

- ・母乳育児学習会の年間計画作成と開催(毎月実施中)
- ・母乳育児10ヶ条の院内掲示
- ・講演会の開催 平成28年6月2日(木)
横浜市立大学附属市民総合医療センター
総合周産期母子医療センター部長 関和男先生
—母乳育児を進めるための講演会— 開催
- ・産後2週間健診の検討
- ・放射線部主導で母乳に対する画像検査薬の使用法についての検討
- ・薬剤部主導で母乳に対する薬剤の教育の検討
- ・あおやぎ祭りで母乳推進コーナーの設置 平成28年9月25日(日)
- ・ピアサポートグループの開催 平成28年10月22日(土)(お母さん同士の情報交換、育児相談の会)
- ・山形県と連携しての母乳育児推進
- ・横浜市立大学附属市民総合医療センターへのBFH研修

平成28年10月17日(月)～21日(金) NICU・4階東の委員2名が研修実施などを行っています。

今後も病院全体で母乳育児推進に向け活動を行い「赤ちゃんにやさしい病院」を目指していきます。



—母乳育児を成功
させるための10ヶ条—

- ①母乳育児についての基本方針を文書にし、関係するすべての保健医療スタッフに周知徹底しましょう。
- ②この方針を実践するのに必要な技能を、すべての関係する保健医療スタッフにトレーニングしましょう。
- ③妊娠した女性すべてに母乳育児の利点とその方法に関する情報を提供しましょう。
- ④産後30分以内に母乳育児が開始できるよう、母親を援助しましょう。
- ⑤母親に母乳育児の方法を教え、母と子が離れることが避けられない場合でも母乳分泌を維持できるような方法を教えましょう。
- ⑥医学的に必要でないかぎり、新生児には母乳以外の栄養や水分を与えないようにしましょう。
- ⑦母親と赤ちゃんがいっしょにいられるように、終日、母児同室を実施しましょう。
- ⑧赤ちゃんが欲しがる時に欲しがるだけ授乳を勧めましょう。
- ⑨母乳で育てられている赤ちゃんに人工乳首やおしゃぶりを与えないようにしましょう。
- ⑩母乳育児を支援するグループづくりを後援し、産科施設の退院時に母親に紹介しましょう。



人間ドック受診者の塩分摂取量からみた 血圧に対する減塩の重要性

人間ドック看護師 ● 青木 由香里

はじめに

山形県は人口当たりの高血圧患者数が全国最多という報告があります。平成28年7月に第57回人間ドック学会にて発表した研究内容「人間ドック受診者の随時尿から推定した塩分摂取量と血圧値との関係」について、御紹介致します。

1. 減塩の必要性

食塩の取り過ぎは、血圧を上げて脳卒中や心臓病の危険性を高めることがわかっています。食塩制限は高血圧の管理や心血管疾患の予防においてとても重要です。

2. 一日の塩分摂取量

平成27年度に、厚生労働省は日本人の一日塩分摂取量について、男性8g未満・女性7g未満を推奨しています。さて、私たちは毎日どれくらいの塩分をとっているのでしょうか。自分が摂取している塩分量は、1回の随時尿から調べることが出来ます。尿から1日の塩分摂取量を身長・体重・年齢・クレアチニンを含む計算式で求めます。当院の人間ドックでも、この「塩分摂取量検査」を取り入れています。そこで、当院の人間ドック受診者の塩分摂取量と血圧、年齢との関係を調べてみました。一定の基準を満たした男女1380人の統計による

と、一日の塩分摂取量は、男性平均9.1g、女性平均8.7gでした。これは、同じ条件で塩分摂取量を検査した東京の値と比較しても、山形県は男女共約1gほど多い結果でした。また、厚生労働省の推奨値に該当したのは全体の4分の1のみという少ない結果でした。

3. 高血圧の薬を内服している人としていない人の塩分量を比較

高血圧治療中(降圧薬内服中)のグループをA、降圧薬を内服していないグループBに分けて塩分摂取量を比較してみました。その結果、平均塩分摂取量はA群では9.50g、B群では8.88gとA群で多く、またすべての年齢層でA群のほうが塩分摂取量が多いことが示されました(図1)。高血圧ガイドラインでは、高血圧治療中の人是一日塩分摂取量6g未満を目標値としています。本来減塩がより必要とされるA群のほうが、多く塩分を摂取していることが明らかとなりました。次に、塩分量摂取量と血圧値の関係です。収縮期とは最高血圧、拡張期とは最低血圧のことです。図2は、塩分摂取量を1gごとにわけて平均の血圧値との関連を示しています。黄色のA群では大きな変化はみられませんでした。緑色のB群では、塩分摂取量が増えるに伴い、血圧値の上昇がみられました。つまり、塩分摂取量が多い人は、血圧が高い傾向にあることが示されました。都道府県別調味料の消費ランキング(図3)によると、山形県は、醤油・食塩・味噌の消費量が全国的にも多いことがわかります。

まとめ

これまでの結果から、高血圧と塩分摂取量の関連と減塩の必要性が少し理解できたでしょうか。減塩により血圧は低下し、塩分量が少ないほど血圧値は低くなると考えられます。不適切な生活習慣が病気の発症・進行に大きく関わっており、それらの習慣を改善することによって予防できる病気をまとめて「生活習慣病」と呼びます。生活習慣病予防のため、日々の食生活に「減塩」を意識づけてみましょう。また、生活習慣病は自覚症状に乏しく、早期診断するには健康診断などで検査することが必要になります。人間ドックや健診を定期的に受け、自分の健康状態を知っておきましょう。

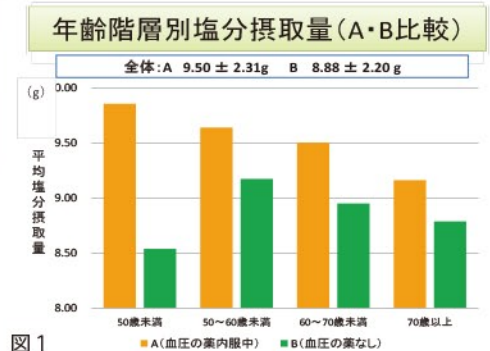


図1



図2

都道府県別調味料の消費ランキング

山形県では、

○醤油 → 全国1位(全国平均の1.4倍)

○食塩 → 全国2位(全国平均の1.6倍)

○味噌 → 全国10位(全国平均の1.2倍)

※1世帯あたりの消費量

図3

平成21年 地域保健医療基礎統計より

外来診療案内

この病院で初めて診察を受ける時は

総合受付（初来院受付）に診察申込書と問診票及び紹介状（紹介状をお持ちの方）を提出のうえ、受付してください。なお、総合窓口受付開始時間までは番号札をとってお待ちください。

再来の時は

予約の有無に関わらず、再来受付機で受付してください。受付票と診察券を受け取り、各科外来ブロック等にお越しください。（再来受付機は、午前7時45分からご利用になれます。）

保険証は・・・

診察の都度、総合受付（再診受付）又は、各科ブロック受付に必ずご提示ください。住所・電話番号が変わった時は、必ず申し出てください。**保険証のご提示がないと全額自己負担になります。**

紹介型外来について

現在、当院においては、一部診療科の外来診療の初診について、【紹介型外来】による医療提供を実施しており、緊急の場合を除いて、紹介状をお持ちの方のみの受付に限らせていただいております。

初診の際に紹介状が必要な診療科…形成外科、泌尿器科、婦人科、眼科

非紹介患者初診加算料及び再診加算料について

他の保険医療機関からの紹介がなく、直接当院へ来院された患者さんは、初診に係る費用（非紹介患者初診加算料）として5,000円（税含む）を頂いております。また、当院から他医療機関（大病院を除く）への紹介の申し出後に、当院を受診した患者さんからは「再診加算料」として、2,500円（税含む）を頂いております。

※緊急入院等の場合は除きます。

外来診察に係る再来患者さんの電話予約及び予約変更については、医療相談支援センターで受け付けております。

TEL 023(685)2620（13時～16時）

「かかりつけの先生」からのFAX予約も受け付けております。待ち時間も少なくてすみませので「かかりつけの先生」にご相談ください。

FAX 023(685)2606（平日 8時30分～18時
土曜 8時30分～14時30分）

初来院受付時間

午前8:00～11:30

ただし、眼科の水・木曜日と泌尿器科の火曜日の受付は、10:00まで

ブロック	診療科	診療曜日
A	内科	月 火 水 木 金
	循環器内科	月 火 水 木 金
	消化器内科	月 火 水 木 金
	感染症内科	第3月曜日のみ
B	整形外科	月 火 水 木 ※
	眼科	月 火 水 木 金
	歯科口腔外科	月 火 水 木 金
C	脳神経外科	月 火 水 木 金
	泌尿器科	月 火 水 木 金
	心療内科	月 火 水 木 金
	神経内科	月 火 水 木 金
D	産婦人科	月 火 水 木 金
	耳鼻咽喉科	月 火 水 木 金
E	小児科	月 火 水 木 金
	小児外科	火(午後)・金(午後)
	皮膚科	月 火 水 木 金
	形成外科	※ 火 水 木 ※
F	外科	月 火 水 木 金
	呼吸器外科	※ 火 水 ※ 金
	乳腺外科	月 火 水 木 金
	心臓血管外科	※ 火 水 ※ 金
	麻酔科・ペインクリニック	月 ※ 水 木 ※
	緩和ケア医療科	月 ※ ※ 木 金
	放射線科	放 射 線 科 月 火 水 ※ 金

※は休診日です。受付しておりませんのでご注意ください。
心療内科は、当分の間新患の方の診察をお受けすることは出来ません。

山形県立中央病院

INFORMATION ●お知らせ

冬期間における駐車場の除雪作業について

当院では、冬期間早朝の降雪状況に応じて、駐車場の除雪作業を行います。除雪作業により生じた雪は、A～E駐車場の東側一帯に堆雪しますので（右図参照）、駐車の際は十分ご注意くださいようお願いいたします。

また、駐車場の堆雪のため通常より駐車場が狭くなりご不便をおかけしますが、駐車スペースがなくお困りの場合は係員が誘導しますので、お気軽に近くの係員までお知らせください。

冬期間の駐車場の除雪について、ご理解とご協力をお願いいたします。

